

空の旅の信頼を構築

調整、濾過した清潔な空気が安全で健康に配慮したフライトを確保

病原菌の存在しない
新鮮な空気
(高高度の大気にウイルスや細菌は
存在しない)

外部の新鮮な空気

オゾンフィルター
オプション装備

VOC**
コンバーター + オゾン
除去装置

標準のHEPA* H13フィルター

HEPA*
フィルター

再循環した客室の空気

清潔な空気

空調システム

濾過済み
の清潔な
空気

最先端の
濾過機能客室内空気は2、3分
毎に完全に入れ替えHEPAフィルターが
ウイルスや細菌を
99.95%除去

病院並みの空気質

*HEPA: 高性能微粒子補足器

**VOC: 揮発性有機化合物

AIRBUS

エアバス機内の空気は清潔に保たれている

エアバスは新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対して、「Keep trust in air travel」(空旅への信頼保持)というイニシアティブを立ち上げました。

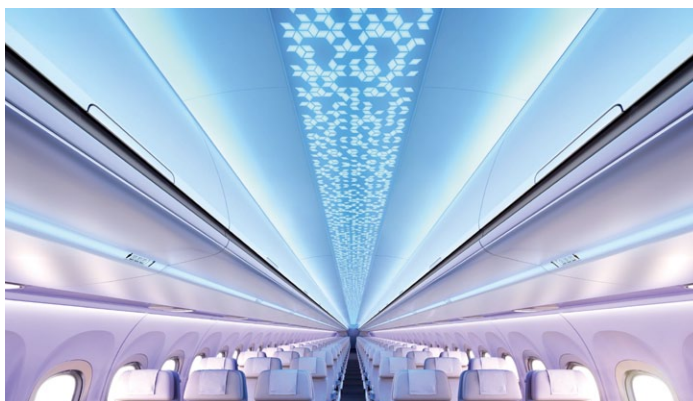
空港や航空会社、メーカー、サプライヤー、当局と協力して航空機が安全で衛生的な移動手段であるということを実証し、空の旅の信頼性を再構築することに取り組んでいます。

航空機は飛行の安全、保安、衛生面を考えて設計しています。客室内の空気は完全にコントロールされており、衛生的な機内環境を保っています。

エアバス機における客室の空気は、外気を取り込んだ新鮮な空気とHEPAフィルターと呼ばれる高性能フィルターを通した清潔な空気を混合させた空気です。

高度 10,000m では病原菌が存在しません。その新鮮な外気を機内に取り込み適正な温度、気圧、酸素濃度、湿度を調整します。この新鮮な空気と、HEPA フィルターによって細菌やウイルスなど 99.95%以上微粒子を除去した循環空気を混合装置で混ぜ合わせ、清潔な空気にして客室に供給します。客室内の空気は 2、3 分毎に完全に入れ替えられます。このような空気供給システムによって、

客室内は病院の手術室と同レベルの清潔な空気を保ちます(次ページに続く)。



エアバス機の客室

contents

空の旅の信頼を構築

アジア太平洋地域プレジデントが就任

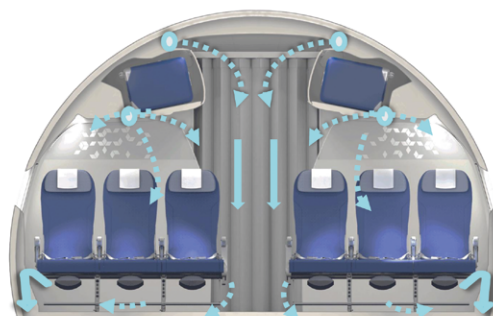
Peach の A320neo 初号機、
塗装を完了しロールアウト

米国の A220 製造工場が稼働

航空機の新しい引き渡し方式
「e-Delivery」を導入コンゴ民主共和国とコンゴ共和国に
救援物資を輸送

客室内の空気の流れは、天井部から床に向かって流れ、床に吸い込まれます。床から吸い込まれた空気は HEPA フィルターで清浄し、新鮮な外気からの空気と混ぜ、再び客室に送られます。空気は上へから下へと流れ、右から左に流れたり、前方から後方へは流れないため、ウイルスや細菌の拡散を防ぎます。また、機内のトイレ、ギャレー、貨物室に供給される空気は再循環せずにそのまま機外へ排出されます。

空の旅の安全を確保する衛生管理はこういった航空機的设计



上から下へと流れる空気
ウイルス/細菌の拡散を防ぐ最適なシステム

客室の空気は2、3分毎に入れ替えられる

空気排出口を最適な位置に設置: 効率的な空気の流れを実現

AIRBUS

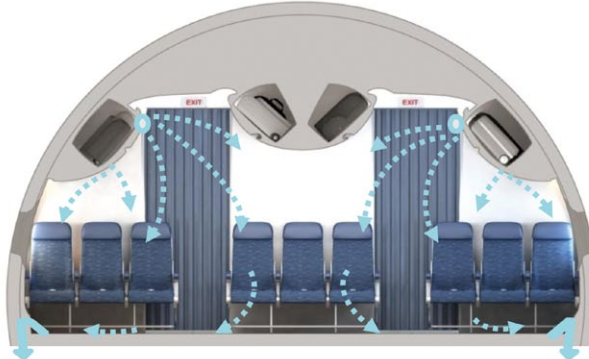
新鮮で清潔な
空気の供給が
可能な設計

空気は2、3分毎に入れ替え

客室の前後へは空気が流れない設計

化粧室とギャレーの空気は循環させない

単通路型機の客室の空気の流れ



上から下へと流れる空気
ウイルス/細菌の拡散を防ぐ最適なシステム

客室の空気は2、3分毎に入れ替えられる

空気排出口を最適な位置に設置: 効率的な空気の流れを実現

AIRBUS

新鮮で清潔な
空気の供給が
可能な設計

空気は2、3分毎に入れ替え

客室の前後へは空気が流れない設計

化粧室とギャレーの空気は循環させない

によるものだけでなく、フライト前からその後もで複数の安全措置をとることが必要です。

エアバスは航空機メーカーとして、航空当局や空港、航空会社と連携しながら、安全対策が国ごとに変わらないようガイダンス作成を調整、サポートします。

ワイドボディ機の客室の空気の流れ

アジア太平洋地域プレジデントが就任

7月1日付でアジア太平洋地域プレジデントにアナンド・スタンレーが就任しました。

アナンド・スタンレーはシンガポールを拠点とし、アジア太平洋地域におけるエアバスおよびグループ全部門の戦略と発展を指揮します。アジア太平洋地域を統括する役割を担い、民間航空機の販売、顧客サービス、グループ全体の政府関係問題、産業界およびジョイントベンチャーとの提携、当地域における全エアバス施設のオペレーションを監督します。

アナンド・スタンレーはクリスチャン・シェーラー最高営業責任者 (CCO) に直属します。また、エアバス・ヘリコプターズ部門およびエアバス・ディフェンス・アンド・スペース部門のアジア太平洋地域責任者と協力して当地域の指揮を執ります。

2018年にエアバス・インドのプレジデント兼マ

ネージング・ディレクターに就任。インドにおけるエアバスのビジネスの発展を監督し、顧客や当局、産業パートナーなど主要なステークホルダーと共に市場地位の向上に尽力しました。

エアバス入社以前は、民間航空、防衛、ヘリコプター関係の様々な要職を務めました。経営戦略や合併・買収戦略にも携わり、リンデグループ、ユナイテッド・テクノロジー、プラット・アンド・ホイットニー、ロッキード・マーチン、シコルスキーとのビジネス経験を持ちます。これまで20年以上にわたり、アジアおよび太平洋地域において国際的なビジネスに幅広く関わってきました。

米ヴァージニア大学ダーデン校でMBAを取得。インドのアンドラ大学でエンジニアリングの学士号を、「IMI-Delhi」で大学院学位を持ちます。



アナンド・スタンレー

Peach の A320neo 初号機、塗装を完了しロールアウト

Peach の A320neo 初号機が 6 月 22 日に塗装を完了し、仏トゥールーズの塗装工場からロールアウトしました。

今後エンジンや機内装備の取り付け作業などを行ったのち、飛行テストを実施します。

Peach は今後 A320neo を 28 機、長距離型の A321LR を 6 機導入する予定です。

単通路型機で最も幅の広い客室を備えるベストセラー機 A320neo ファミリーは、新世代エンジンやシャークレットなど最新技術を取り入れることによって旧世代機と比較して燃費を 20%、騒音を 50%削減します。

A321LR は、市場をリードする A321neo の航続距離延長型で、最大 4,000 海里 (7,408 キロ) を

飛行することが可能です。

2020 年 5 月末時点で A320neo ファミリーは世界中のおよそ 110 社から 7,400 機を超える受注を獲得しています。



Peach の A320neo 初号機



ロールアウトする Peach の A320neo 初号機

米国の A220 製造工場が稼働



米国アラバマ州モービルの A220 工場

米国アラバマ州モービルで A220 の製造工場がこのほど、稼働を開始しました。約 2 万 5,000 平方メートルの広さがあるこの工場は、大型部品の組み立て作業を行う組立ステーションを 5 つ備え、A220-100 と A220-300 を製造します。

また、今回の工場稼働と共に、ジェットブルー向け A220 の最初のコンポーネントの組み立てが開始されました。ジェットブルーは米国の A220 工場で作られた機体を受領する世界で 2 番目の航空会社です。

エアバスは 2017 年 10 月にモービルの A220 製造拠点の建設計画を発表し、2019 年 1 月に着工しました。

2019 年 8 月には、モービルにある既存の A320 ファミリー向け最終組立工場に A220 の製造を開始しています。今回、この A220 専用の製造工場が稼働したことによって、アラバマ州におけるエアバスの製造工場は 2 倍に拡大しました。

アラバマ州モービルの工場は A220 の 2 番目となる最終組立工場です。A220 の主要な製造施設がある当プログラムの本拠地はカナダのミラベルに置かれています。



5 つの組み立てステーションを備える工場

航空機の新しい引き渡し方式「e-Delivery」を導入



e-Delivery で航空機を受領したペガサス・エアラインズ

航空機の新しい引き渡し（デリバリー）方法である「e-Delivery」の運用が開始されました。遠隔でデリバリーに関わる全ての作業を行うこの方式を

初めて採用したのはペガサス・エアラインズです。同社は e-Delivery によって 3 機の A320neo ファミリーを受領しました。

新型コロナウイルス（COVID-19）の流行が継続する中、e-Deliveryを導入することによって、健康面、衛生面での安全性を確保しながら、エアバス機の引き渡しを保証します。

e-Delivery ではまず、地上で航空機の検査、確認をするグラウンド・チェックや、テスト飛行で様々なシステムの確認を行うアクセプタンス・フライトなどの必要な作業を、航空会社がエアバスに委託することができます。さらに、タイトル・オブ・トランスファー（所有権の移転）に関わる作業を、「e-SalesContracts」というプラットフォームを活用し、最終的なデジタル署名に至るまですべての作業を遠隔で実施します。これによって、引き渡しを受ける航空会社の担当チームが、通常作業を行っているエアバス・デリバリー・センターに赴く必要がなくなります。

COVID-19の危機に見舞われる現状において、e-Deliveryはエアバスと航空会社が安全にビジネスを継続するひとつの手段となります。

エアバス基金、 コンゴ民主共和国と コンゴ共和国に 救援物資を輸送

エアバス基金（エアバス・ファウンデーション）はこのほど、フランス赤十字社、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）と協力し、新型コロナウイルス（COVID-19）とエボラ出血熱の流行が起きているコンゴ民主共和国とコンゴ共和国に、医療チームおよび人道支援物資の輸送を行いました。

14トンの救援物資は A330neo テスト機で輸送されました。



A330neo テスト機で救援物資を輸送

2020年5月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	16,214機	9,488機	8,986機
A300 / A310	816機	816機	294機
A330 / A340	2,196機	1,874機	1,665機
A350	930機	366機	367機
A380	251機	242機	240機
合計	20,407機	12,786機	11,552機